

令和2年 新年号

きらり

酒田市農業委員会報 No.56



「今年の干支^{ねずみ}子 ～みどりの里山居館での正月飾りづくり～」

いぬこわし



酒田市農業委員会 会長
五十嵐直太郎

令和2年が幕を開けました。昨年の稲作は、農家の皆様の適切な管理等により、近年にない良好な作物となりました。農業情勢では、日米貿易協定が発効の運びとなり、今後は、丁寧な説明と実効性のある政策支援等の実現を強く望むところです。

農業委員会は、農業の基本となる大切な優良農地の確保と効率利用を進める業務等を担っています。その情報提供活動として、この「きらり」を昨年から全戸配布させていただいております。

今年も生産者の努力が報われるような作物になることを願いつつ、美しい景観を誇る、地域の財産でもある農地を守るために、農業委員会一同、頑張つてまいりますので、変わらぬご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

特集

農業を夢と希望のある産業へ 丸山市長との意見交換会



農業を夢と希望のある産業として未来へつないでいけるよう、農業振興の視点から、4つのテーマで丸山 至 市長と農業委員が意見交換を行いました。
(令和元年10月29日)

女性の活躍による農業振興

農業においても女性の活躍は不可欠。女性ならではの特長を活かすために2つ提案したい。

①山居倉庫周辺を、酒田農業の発信、受信の拠点に

観光拠点に加え、酒田農業の拠点として、直売所、農家レストラン、グリーンツーリズムや新規就農相談窓口などを集約し、その運営を女性活躍の場にできればと考える。

②農作業のサポート制度

子育て世代の女性が空き時間に資格や技量を活用して農作業をサポートする制度（選別・袋詰めなどの協力、耕起のトラクター操縦など）、例えば「アグリ人材センター（仮称）」のような女性登録者・依頼農家をつなぐ仕組みがあるといい。

丸山市長／

①山居倉庫は維持保存していくべき農業遺産。現在、国の史跡指定に向けて調査を行っている。また、近隣の高校跡地を、農業の発信拠点となる機能を含む集客施設として活用する構想があり、公民連携で仕掛けようとしている。八幡地域の「日向里かふえ（※1）」も、



ノウハウや店舗デザインなど、民間企業の力を活かしている。高校跡地利用の集客施設と山居倉庫との相乗効果で、市民も観光客も集まり、農業発信拠点となる施設と考えたとき、女性農業者の感覚も大いに活きてくるはず。現実的なプランになるよう仕掛けたい。

②さまざまな人材バンクがあり、その中には働く人が集まらず機能していないという実態もあるが、PR次第だと思う。アグリ人材センターの仕組みづくりは、核となる女性リーダーとともに試行を取り入れながら、骨格作りから取り組んでいければと考えている。農業の6次産業化を狙いとして作った「サンロク（※2）」も活用できるのでは。

※1 日向コミュニティセンター内に令和元年7月にオープン。優良品計画（本社東京都。本市と地域発展に係るパートナーシップ協定を締結）が監修し、日向コミュニティ振興会が母体となって運営。

※2 市産業振興まちづくりセンター（市役所中町庁舎1階）。人と企業を「つなぐ」をテーマに各種マッチング支援を展開。

スマート農業の実践による農業振興

労働力不足の解消には、AIやドローンなどロボット・情報通信技術の活用が必要で、「スマート農業研修センター」で実践研修会が行われている。また、本橋地区ではリモートセンシング^(※4)実証調査が行われているが、そこで得た情報を分析し、可変施肥技術導入推進に活かしてほしい。さらにこれら調査・取り組み区域の拡大を望む。こうした全国に先駆けた取り組みとともに、酒田は品質、収量ともに安定した米の産地であるとの評価を確立してほしい。

丸山市長

さまざまな先端技術を活用した土づくりと、データに裏打ちされた農業実践を農業者に取り組んでもらうことが、これからの農業振興



興の戦略のひとつと捉え、スマート農業研修センターを立ち上げた。酒田の農業経営を、全国のどの農業地域よりも数段上のレベルに持つていくためには、農業関係組織との考えのすり合わせを行いつつ、全体的な制度設計と普及を仕掛けなければならぬと考える。

クルーズ船寄港を活用した農業振興

大型クルーズ船の寄港は、農業者にとっても酒田産農産物宣伝の大きなチャンス。港内で旬のメロン、イチゴなど農産物の試食を行い、購入はQRコード記載のチラシから、支払いは電子決済という仕組みができるという。オプショナルツアーで山居倉庫を訪れた乗船客には新米のおにぎりを提供し、米のおいしさと美しい風景を堪能してもらいたい。



丸山市長

クルーズ船の皆さんからは、酒田港はおもてなしがいいと高評価を得ていて、市民の皆さんの努力の賜物と感謝している。提案の港内での旬の農産物提供の試みについては、港の管理者であり、催しの実施主体でもある県との調整が必要だが、おいしい農産物や地酒などをPRする絶好の機会であるので、関係団体と連携して仕掛けていきたい。

交流の推進による農業振興

本市は、東京都北区や田園調布をはじめ、都市部と農業を通じた深い結びつきがあるが、人口減少時代を迎え、ますます交流人口の増加が重要になる。人と物・農産物の交流をピンポイントで長く続けていくことが求められるだろう。



そこで、まだ行われていない東京都武蔵野市の小学校への米づくり授業訪問や農産物の直接販売の機会を増やすなど、人の顔が見える交流を今以上に展開していくことを提案する。

丸山市長

ピンポイントで、長く深掘りした交流との意見については同じ思い。首都圏の催しで酒田の物産販売もしているが、PR不足との声もある。このPRと交流を長く継続するためには、戦略的にコントロールする機能の確立と行事集約整理の必要性を感じる。予算の課題もあるが、地元産業界の元気づけになる投資はしなければならぬ。やはり酒田は農業のまち。農産物を売る努力をしていかなくは、と改めて実感した。



※3 ロボット技術や情報通信技術などを活用する新たな農業。

※4 ドローン等を用いて遠隔操作で対象物を測定し、離れた場所から情報を得る技術。

キラリな女性

かがやく女性農業者



浜中 奥山 加奈子

庄内の自然にふれて

私は、パイオニアレッドワイングラスと岡山シーガルズで、13年間プロバレーボール選手としてプレーしてきました。3年ほど前に地元に戻り、昨年春、浜中の専業農家の奥山家へ嫁ぎました。奥山家では、ハウスメロンから始まり、路地メロン、ブロッコリー、青首大根などを栽培しています。私は就農しているわけではありませんが、仕事の休日に簡単な作業を手伝っています。そして現在は出産を控えています。

私の実家も農家で、子どもの頃からよく柿畑で遊び、毎日おいしいお米を食べ、農作業の大変さも収穫の喜びも、いつも家族から聞きながら育ってきました。

大人になり地元を離れてからは、それまで当たり前と思って食べていた採れたての農作物が、実は農家だったからこそ食べられた、ということに気づき、ありがたみを実感しました。浜中に嫁いだから、夏にはおいしいメロンが毎日食べ放題でも幸せです。

忙しいながらも、日々自然にふれ合い、風を感じ、喜びを分かち合える環境にあることは、とてもすてきなことです。子どもが生まれたら、自然に恵まれたここ浜中で、一緒に農作業を手伝ったり、農作物の栽培や生長にふれ合ったりして、大地の恵みをいただきながら元氣いっぱい育ててほしいと思っています。



▲冬の風物詩 干し大根(奥山家の畑)

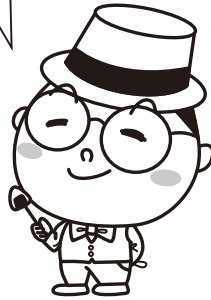
農業に関する？を解消

教えてキラリン



このコーナーでは、農業に関する素朴な疑問・質問に、キラリンが为您解答します。

農業のことなら私におまかせください



▲キラリン

今号のテーマ

農地の青地

あおじ

Q 田や畑で「ここは青地の田だ」「この畑は青地ではない」などと耳にすることがあります。「青地」って何のこと？

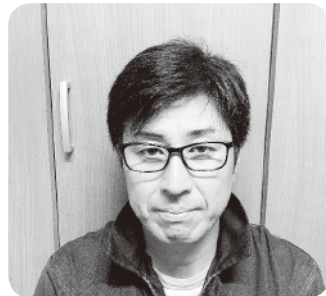
田や畑の農地には、農作物の生産だけでなく、環境保全や地域資源としての重要な役割があ

り、未来へ引き継いでいく必要があります。農地の利用においては、「青地」という区域を「農地および農業振興のために利用すべき土地」として設定しています。

もう少し詳しく解説しましょう。「青地」は、都道府県知事が指定した「農業振興地域」のうち、市町村が設定した「農用地区域」を指します。これは、将来長期にわたって守るべき農地等であり、農業を営んで農業振興を図る上で、より重要な区域のことです。正確には「農業振興地域内農用地区域」と言いますが、略して「農用地区域」「農振農用地」と言ったり、簡便に「青地」と言ったりします。「青地」は、農地以外の目的に使用する転用や、土地を工事等によって開発する行為に対し、法律により制限がありますが、一方で、農業上のさまざまな交付金の対象農地となる面や、税制面で優遇されている面もあります。

かぜ

～若手農業者リレーエッセー～



私は、平成30年にそれまで勤めていた会社を退職し、家業を継ぐ決心をしました。その理由は、水稲農家の長男としていずれ後を継がなくてはと、思っていたこともありましたが、昨今耳にする農業の話は、高齢化・担い手不足、重労働に対し低収入、と良い話がないけれども、だからこそ、これからの勝機があり、チャンスが潜んでいるのではないかと考えたからです。「これから多くのことを学ばなければいけない。今が最終分岐点だ」と思い、農業の道へ進む決意を固めました。

しかし、現在の水稲規模だけで生計を立てるのは厳しい状況です。そこで、関心があった園

就農への決意

中平田 池田 祐樹

芸に着手しましたが、我が家は水稲以外の栽培をしておらず、知識や技術が皆無でした。

そんな中「農業次世代人材投資事業」を知り、就農1年目は知人農家の方のもとで園芸の知識や技術を研修。座学は、新庄の県立農林大学校に通って農業の基礎と専門知識を学び、翌年以降に独立就農、経営開始するための準備と経験を積みました。

現在就農2年目で、水稲栽培技術は父や研修会から学び実践しています。自身の経営部門である園芸は、事業計画の収量・収入・品質にはまだまだだどり着きません。何をやるにも四苦八苦し勉強の日々ですが、周りの先輩農家の方からの惜しみないアドバイスは何よりも勉強になります。

私は「ゼロから作り出していく農業のおもしろさ」と、「まだまだ多くの可能性を秘めている農業ビジョン」にやりがいを感じています。これからは、就農時の決心と決意を見失わず、また、描いているビジョンや計画を達成するために、先輩農家の方々の助言を大切に、勉強を怠らず、農業に邁進していきたいと思えます。

「農地集積・集約化推進大会」開催



令和元年9月11日、天童市の山形県農業共済組合を会場に、「山形県農地集積・集約化推進大会」が開催されました。

この大会は、「人・農地プラン」の実質化と、中心経営体への農地の集積・集約化を推進する機運を醸成させることを目的に、県や県農業会議、県農業協同組合中央会で組織する山形県農地集積・集約化推進会議が主催し初めて開催されました。

在 来 言 語

～世代を超えて農家に伝わる酒田言葉～
この言葉の意味、あなたはわかりますか？

【問題】

「ふぐどりもぢどみそど、どっちく？」



正解

「きなこもちとみそおじや、どっちを食べる？」

◆「ふぐどりもぢ」は「福取餅」といい、正月の来客時に食べるきなこもちを指します。

農業一筋

農業委員がおじやまして

お聞きしました！

遊摺部

佐藤 善 喜
偵 子 一夫妻



善喜さん（80歳）、偵子さん（75歳）は三世代家族で、田と畑を約6ヶ経営する農家。市内4か所の産直に出荷する野菜（キャベツ、白菜、里芋など）の収穫は善喜さん、袋詰めや各産直への納品は偵子さんの役割。偵子さんは、「産直で農家仲間と和気あいあい語り合う時間が毎日の楽しみ」と声を弾ませます。

長年農業に勤しんできた中でおもしろかったことを善喜さんに尋ねると「十年前、からどり芋が2倍もの丈に生長して驚いたことがあった。気候が良かったのかな。」



背丈を超えたからどり芋（平成21年）

農作物は、毎年同じように植えても、気候によって生長具合が変わるからおもしろい」と話します。

また、昨年就農したお孫さんと畑に出ることもあり、「小さい頃から一緒に畑に行っていたけれど、今では進んで畑仕事をしてくれるので、安心してまかせています。めんごいものです」と、ご夫婦そろって目を細めます。

お孫さんには「野菜作りとともに友達作りにも励んでほしい。この地区には同年代の若い農家もいるので、協力して頑張ってもらいたい」と善喜さん。これからも元気で活躍ください。（児玉昭一委員）



おしらせ

令和2年度 酒田市参考賃借料

(10%あたり)

農地	区分	令和2年度	令和元年度	基準収量
田	1	11,000円	11,000円	600kg
	2	9,000円	9,000円	580kg
	3	6,000円	6,000円	550kg
	4	3,000円	3,000円	520kg
	5	1,000円	1,000円	480kg
畑		4,000円	4,000円	

※大豆・飼料用米等を加味した額です

酒田市農地集積センター 参考賃借料検討協議会 作成

※委託者・受託者双方で相談して決定してください。

右表はあくまでも参考です。

- ・土地改良区の償還金があるところ、変形田、中山間地等の作業環境が悪いところの賃借料は、双方でよく相談してください。
- ・毎年見直される参考賃借料に準じて精算するか、契約期間中は変動しない賃借料額で精算するか、双方でよく相談してください。



編集後記

冠雪の鳥海山と、白鳥がえさをついばむ庄内平野。こうした自然の中で初日の出を拝むと、冷たい空気が体中をめぐり、凜としてきます。

令和元年は、台風や大雨による甚大な災害が日本各地で起こりました。また、消費税が10%に引き上げられた年でもありました。

酒田市農業委員会では、一年おきに、酒田市長と農業委員それぞれが思い描いているこれからの酒田農業について話し合う意見交換会を行っています。高齢化が進み、若い世代が少なくなっていますが、多様な担い手に協力してもらいながら、酒田の豊かな農業を守り、持続できるように、お互いに知恵を出し合うのです。農業が、若い世代に魅力ある職業になってほしいと思います。

四世代同居の我が家では、今年も、93歳から5歳までの4人の男衆が元旦のお雑煮を作りました。（会報委員長 関口友子）